

令和2年度淀川区区政会議 第2回安全・安心なまち部会 議事要旨

日 時：令和2年3月10日（水）午後6時43分～午後7時31分

場 所：淀川区役所 5階 501会議室

出席者：

・委員7名（8名中）

増田委員、田中委員、渡土委員、永野委員、中本委員、堀委員、米山委員

[欠席委員：新井委員、]

・区役所

久保政策企画課長、舟木相談調整担当課長代理、矢野福祉担当課長代理、

大畑保健副主幹、岡田市民協働課担当係長 ほか

内 容：

1. 議 題

(1) 令和3年度淀川区運営方針(案)について

資 料：

【当日配布資料】

・次第

・区政会議委員名簿

・座席表

・(資料3) 令和3年10月以降の区政会議運営について

・(資料4) 淀川区令和3年度区長自由経費予算事業一覧

・(資料5) 「地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業」及び「淀川区地域福祉推進ビジョン(淀川区おせっかい共和国宣言)」について

・よどマガ3月号

【事前配布資料】

・(資料1) 令和3年度 運営方針重点的に取り組む主な経営課題（概要版）案

・(資料2) 区政会議アンケート結果

1. 議 題

(1) 令和3年度淀川区運営方針(案)について

○ご意見を頂きたい点について説明。(久保政策企画課長)

○経営課題 1 安全・安心なまちづくりの具体的取組 1-1-1～1-1-4 について説明（岡田市民協働課担当係長）

・自助の取組について、自宅で飲料水や食料などを3日以上備蓄してもらうために、動画配信や情報発信を行うとなっているが、区役所が具体的にスーパーやコンビニなどの店舗と協定を結んで、水や缶詰の販売コーナーにチラシを置いたり、レシートに啓発文を掲載したりすることは行政として難しいのか。（増田委員）

⇒そのような内容で、一企業と協定を結ぶことは難しい。（舟木相談調整担当課長代理）

⇒地域貢献をしたいと考えている企業もあるので、企業と行政の思いが一致すれば協定が結びやすくなると思うので、区役所としても模索していきたいと思う。（久保政策企画課長）

⇒淀川区には既にいくつかの代表的な企業から地域貢献の申し出や具体的な協力を申し出てくれている企業がある。今後こうした企業がさらに増えていくような雰囲気づくりが大切だと思う。（舟木相談調整担当課長代理）

・野中地域の印刷会社から地域に、フェイスシールドを寄附していただいた。そういうことが区全体に広がっていけばよいと思う。（米山委員）

・飲料水や食料などを備蓄するうえにおいて、個人としてどのようなものを揃えておけばよいかや、賞味期限の到来を知らせるような発信をしてもらえれば、備蓄がしやすくなると思う。（田中委員）

・区役所が必要なものを揃えて区民に販売し、例えば一年後に、購入した人全員に買換えを促すような通知をするようなことをしてはどうか。（増田委員）

・住んでいるマンションの管理組合で、各家庭に水と携帯トイレを配ろうとしたら、住民から置き場所がないという意見が出たことがあった。4人家族ともなれば、区役所の言う3日分の備蓄は相当の量になるので、場所の確保が大変である。また、マンションが増加しているなか、個人に呼びかけるより、管理組合や管理会社に備蓄を啓発するように依頼した方が効率的ではないか。（永野委員）

⇒行政から依頼するのは難しいところもあると思う。区内のマンションの中には、販売時からマンションが津波避難ビルに指定されていて、区民向けの水や携帯トイレだけではなく、マンションの住民用の備蓄物資も備えているということをPRしていたものがあった。このようなマンションが増えることを期待する。（岡田市民協働課担当係長）

・三津屋地域では各町会の会館で、水・乾パン・毛布などを2日分程度備蓄している。これからは、地活協と地域の商店街や企業と連携して、備蓄をしていくことを今年の目標にしている。（中本委員）

- ・若年層向け啓発動画による情報発信はしているのか。若年層は地域の防災訓練への参加率が低いので、それらを利用してほしいと思っている。（中本委員）

⇒淀川区の住みます芸人の「職人」に依頼して3種類の動画を作成してもらい、Twitterや区の動画チャンネルで配信している。（岡田市民協働課担当係長）

- ・防災訓練は、一地域だけで実施するのではなく、近隣の地域と合同で実施する必要があると考えているので、今後も各地域と連携して実施できるように調整したいと思う。（中本委員）

○経営課題 1 安全・安心なまちづくりの具体的取組 1-2-1 について説明（大畑保健副主幹）

- ・要援護者支援の名簿は、地域のどこまでの人が閲覧できるのか。名簿はコピーができないので、閲覧しただけではすべての要援護者の情報を覚えることができない。閲覧のルールをもう少し柔軟にして、必要なところに情報が届くようにした方がいいのではないかと。（田中委員）

- ・民生委員長のところにも名簿はあるが、掲載されている情報が古く不備がある（米山委員）

- ・ちょっとしたおせっかいができる担い手を増やすということは、名簿の閲覧制限を外していくと考えていいのか。（増田委員）

⇒名簿については町会によって少し異なる所はあるが、各町会に渡し管理していただいている。おせっかいに関しては、困った人がいたら積極的に声をかけるなど、地域福祉活動の担い手としてのおせっかいを考えているので、名簿の閲覧制限とはリンクしていない。重点的な取組みとして「担い手育成」に力を注いでいきたい（大畑保健副主幹）

- ・高齢者の方が買い物で重たい物を持っておられるのを見ると手伝いたいと思うが、中にはこれをひとつの日頃の訓練とされている方もおられ手を出すのが難しいと感じる。地域をたまに回り困っている人がいたら少しお手伝いをする「おせっかいパトロール隊」くらいの活動ならできると思う（米山委員）